

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2019~2020年度 No.241

2 月報

那須クラブ会長 主題

地域につなげ那須ワイズ



強調月間：TOF

今月の聖句

あなたがたは、身代金を払って買い取られたのです。
人の奴隷となつてはいけません。

I コリント 7 : 23

2019~2020年度 主題

国際会長：(IP) Jennifer Jones (オーストラリア)

「より良い明日のために今日を築く」

アジア太平洋地域会長：(AP) 田中 博之(東京多摩みなみ)

「Action!」

東日本区理事：(RD) 山田 敏明(十勝)

「勇気ある変革、愛ある行動!」

北東部長：鈴木 伊知郎(宇都宮東)

「われら北東部、世界のワイズメンと共に前に進もう」

・ 2月第1例会

日時：2月21日(金) 午後6時30分~

場所：日本キリスト教団 西那須野教会

内容：ユースリーダーの活動報告

司会：村田 榮副会長

開会点鐘 会長 河野 順子

会長挨拶 会長 河野 順子

ワイズソング斉唱 一同

ワイズの信条の斉唱 一同

聖書朗読・祈禱 司会者

ゲスト・ビジターの紹介

食前の祈り 田村 修也副会長

会食

「ユースリーダーの活動報告」

・ユースフォーラム報告 西 勇佑・五十嵐 啓介

・Yキッズ年間報告 平山 雄大 主事

YMCA報告

ワイズ報告

YMCAの歌 一同

閉会挨拶・点鐘 会長 河野 順子

会費：メン・メネット 1,000円

人数の確認は、2月19日(水)までに村田副会長まで

TEL 0287(77)3103 携帯 090(9095)4035

Mail sannma@gold.ocn.ne.jp

クラブ役員

会長：河野 順子

副会長：村田 榮・田村 修也

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：藤生 強

ブリテン：田村 修也・村田 榮

1月例会データ—(出席率：83.3%)

在籍者 6名(内 功労会員1名) 例会出席者 5名

メネット2名 Yスタッフ1名 ゲスト(リーダー4名)

2月 Happy Birthday

2/12 村田 榮メン

・ 3月第2例会(役員会)

日時：3月2日(月) 午後12時30分から

場所：ココス西那須野乃木店

・ あがれ風揚げ(特別例会)

日時：3月7日(土) 午後1時~

場所：大田原市ふれあいの丘

・ 3月第1例会(CS公開講演会)

日時：3月27日(金) 午後6時30分~

場所：日本キリスト教団西那須野協会

とちぎYMCA・・・共に歩んだその一頁

主の年2020年を迎えたと思ったら、早や2月中旬である。私も今年9月には90歳を迎えることとなる。月並みだが「光陰矢の如し」を日々実感している。

とちぎYMCAは、創立10周年を機に、「宇都宮YMCA」から現在の呼称に変更された。私は創立時に強く「とちぎYMCA」を推していたので、やはり…と溜飲をさげたものだ。当時のメンバーの多くは、かつての教会青年であった。小柳恭郎氏、諏訪治男氏、十河 弘氏、鱒淵和義氏、田村修也氏等に私といった面々である。小柳氏は、一番年上で兄貴分的存在であった。この1月18日に、SDGs勉強会なるものがあり、病み上がりの状態ではあったが、諏訪さんやお友達も参加しますよとの案内に懐かしさもあって参加した。5～60人の参加者の内のYMCAのスタッフを除けば、顔見知り足利ワイズの諏訪氏と羽山氏のみ。むべなるかな。勉強会の中身にはサッパリついていけなかったが、中には母親と共に小学生も参加していたり、YMCAの新しい活動の一端を見た思いである。

YMCAの初代井口 延総主事から並木信一総主事時代にかけて、YMCA創立5周年記念事業がおこされた。協議を重ねていた中、私も自分の住む塩谷町役場、町長さんに相談し、町の東京電力水力発電所跡地の払い下げを受けることとなり、この塩谷キャンプ場開設が決議された。塩谷キャンプ場は、宇都宮YMCAが初めて有した固定資産である。キャンプ場は、その後地元の方々の協力を得つつ、脇を流れる川から水を引き、鱒を放して“つかみ取り”を楽しんだこともあった。

山田公平総主事時代も思い出深い。スマホなどなかった時代だが、彼には夜の10時・11時にYMCAに電話をして繋がったのには驚いた。(電話をするほうもするほう) 山田総主事は、やがて来る高齢化社会を見据えて危機感を持ち、YMCAの中で勉強会を組織し、それは老人福祉にとどまらず、ホスピスの問題、発達障がい児への対応等々福祉の底辺を広げるエネルギッシュな活動となった。かくて青少年活動を標榜するYMCAが、全国のYMCAにさきがけて、老人ホームという新しい分野へ創造的に一歩踏み出したことは、自分のことのように誇らしい思いであった。老人ホームの初めてのパンフレットの表紙の言葉 ” タベにも光あり “にYMCAのあるべき姿を感じた人も多かったとおもう。

そして山田総主事のもう一つの思い出。話はロータリークラブに飛ぶ。ロータリークラブの活動の中に、インターアクトクラブなる活動がある。これは、ロータリークラブの奉仕の心と働きを広く若い高校生にも知らしめ継承してゆきたいとの願いから、全国レベルで高等学校にそのクラブを作ってもらおう、同時にロータリーは高校生に海外研修のサポートをさせて頂くという活動である。当時私は矢板ロータリークラブのインターアクトクラブ委員であった。我が母校の塩谷高校にクラブへの加入を勧めさせていただいたところ、当時の黒羽校長先生より全校生徒が加入したいとの快諾を得ることができた。通常は1校で数名の参加者なので、この全校生徒の参加は全国ロータリークラブの中でも話題となった。そこで私は、この塩谷高校での記念すべきインターアクトクラブ設立式典の記念講演に我がYMCAの山田総主事をお願いした。氏は、大学で学んだこと、米国に渡って体験したことを「アメリカにおける福祉の体験」との主題で話して下さった。この式典に来賓として出席されていたロータリークラブ2550地区のガバナー(栃木地区の代表者)も講演に感動し、後に山田総主事にロータリークラブでの講演を依頼されたと聞いた。

私の小さなボランティア活動の中で、それぞれの活動のパイプ役を果たせたことには意味がある。我々ワイズの使命が行動を生み、行動が実を結ぶ。YMCA・ワイズの使命の継承を願ってやまない今日この頃である。



1月例会（新年例会）

書記 藤生 強

日時：2020年1月24日（金）午後6時～

場所：金の食彩

参加者：河野、田村、原田、藤生、村田各メン。原田、田村メネット、YMCAスタッフ1名（平山主事）。ゲスト（ユースリーダー4名）

新年例会は、国道400号バイパス沿いにある居酒屋「金の食彩」にて行いました。河野会長が他会合にて利用しとても美味しかったということで、ワイズとして初めて利用しました。

また例年の新年例会はメンバーのみで行っていましたが、今年度はほとんどの例会にボランティアリーダーを招き交流を深めていたので、今年はその流れでボランティアリーダー4名を招いて行いました。

会場は『お座敷（のれんを扉代わりとした個室）』でしたが、「開会点鐘」「会長挨拶」「ワイズソング」「ワイズ信条」「今月の聖句」と、いつもと変わらぬ雰囲気で開催しました。

食前の祈りの後、座卓に並べられたお鍋や刺身など魚を中心とした料理を頂きました。美味しい料理にどんどん箸が進み、そしてメンバー同士やボランティアリーダー達との会話も弾み、リラックスした雰囲気で会食は行われました。

お腹が満たされたところで「今年の抱負」を一人ひとり発表しました。メンバーからは「健康維持、についての抱負が多く聞かれました。ボランティアリーダーからは「YMCAプログラムでの子ども達との充実した関わり、についての抱負が多く聞かれました。

『ボランティアリーダーのサポート』は那須ワイズ主活動の一つなので、ボランティアリーダーとの交流はとても有意義なひと時となりました。

2月第2例会（役員会）報告

日時：2月3日（月）午後12時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

出席者：田村副会長、村田副会長、藤生書記、田村メネット

協議事項

1. 1月例会（新年例会）の反省

リーダー4名の参加があり、リーダーの話も聞けて楽しい例会であった。

2. 2月例会の件

ユースリーダーの報告会とする。日程は、2月21日（金）午後6時30分から、日本キリスト教団

西那須野教会で行う。夕食は、田村有希子さんをお願いをしてカレーの準備を行う。知人等への声掛けをする。玉ねぎ、ジャガイモ、コメは村田が準備する。会費1000円。司会は村田副会長。

3. 3月役員会の件

3月2日（月）午後12時30分よりココス西那須野乃木店で行う。

4. 3月例会の件

地域奉仕講演会とする。講師は河野順子会長。演題は、「超高齢化社会で元気に生き抜く」とし、3月27日（金）午後6時30分から8時までとする。夕食はなし。場所は日本基督教団西那須野教会。チラシとポスターを作成し多くの方々に呼び掛ける。

旧西那須野（那須西原）の緑と水（第83回）

田村修也

この歎願にたいしまして、次のような指令がありました。

往信21274号

書面願之趣、特別ヲ以テ、修繕及取締等ニ関スル経費、補助スベキニ付、左の事項相心得、本年3月29日付指令ノ旨趣ニ基ヅキ、組合規約ヲ定メ更ニ伺出ツベシ。

- 一、 補助金総額ヲ金6千円トス。工事ノ都度支出本金額ヲ限り補助スベシ。
- 一、 補助金ヲ以テ支弁スル修繕工事ハ、県庁ニ於テ掌理ス。
- 一、 補助金ニ係ル出納ハ、県庁ニ於テ掌理ス。
- 一、 水路取締巡視員及水門番ニ支給スベキ手当ハ、補助金ノ内ヨリ支弁スベシ。
- 一、 水路ニ破損ヲシヨウジタルトキハ、其状況ヲ祥記シ速ニ報告スベシ。

明治19年10月9日

栃木県知事 樺山資雄

この指令を受け取った印南さん矢板さんは、早急に申合規約を定めて、知事の認可を受けなければなりませんので、10月23日に、二人そろって県庁に出頭して、県側と打ち合わせをしました。また同志である田上貞資さんに連絡を取って、規約原案を作成して、11月1日に、大田原町塩谷の益子甚四郎宅を会場に水組総会を開きました。そして翌日の2日迄2日間にわたって審議をした上で、申合規約を定めまして、11月19日に認可願いを、那須郡役所を経由して栃木県知事に提出しました。認可願いは若干の修正が加えられましたが、12月6日付けで認可されました。私も県の職員として申請書を受

理する立場で仕事をしてきましたが、印南さん、矢板さんの対応の迅速さには目を見張るものがあります。次に、県からの指令で修正した全文を記載します。

那須水組申合規約

那須原疏水ノ工事タル、政府巨万ノ金額ヲ消費セラルルハ、喋々弁明ヲ俟タズ。而シテ、直接ニ此幸福ヲ享クルモノハ、該原移住ノ民ナリ。故ニ、我々ハ、一致共同国産ヲ振起シ、聖恩ノ万一ヲ報セザルベカラズ。熟々各地ノ用水ヲ案ズルニ、規約ノ正カラザルニヨリ、往々不都合ノ事蹟ヲ見ルコト艱カラズ。今回疏水ノ如キハ、其灌漑数千町歩ニ渉ルノ大工事ニシテ、此際、之レガ永世修理ノ方法ヲ確定セザレバ、移民ノ親和ヲ永遠ニ保持スル能ハザルハ勿論、遂ニ水路は破壊シ、移民ハ離散シ、上ハ、聖恩ニ報ユル能ハズ、下ハ自己の生計ヲ保ツ能ハザルノ不幸ヲ免ガレザルベシ。此不幸ヲ転ジテ、後来ノ福利ヲ増進スルニハ、移民共同親和シ、原野ノ命脈タル水路ヲ永遠ニ維持スルニアリ。水路ヲ維持スルニハ、分水ノ量数ト水路ノ修理ノ方法ヲ確定スルノ外ナラズ。爰ニ灌漑ヲ享ルモノ集合誓約スル左の如シ。

この規約の前文には、以前に記載しました明治13年の飲用水路開鑿の歎願書に記載されていました長嶋堀の悲劇を繰り返したくないという、堅い決意が込められていることが身に迫って来ます。矢板武さんもその著書那須開墾記の中で「万治年間に至りて長島太郎なるものあり、西岩崎より一条の水路を鑿り、黒磯の南西の地を開墾し、長島新田と称え一部落をなしたり。然るに其後洪水の為に渠口決壊し、水利断絶せしを以て、人民離散し、再び荒蕪に帰せり」と書いています。これは言い伝えを聞いて記してものと思われませんが、明治17年に発刊されました「那須野略史」にはやや詳しく書かれています。この長嶋堀につきましては昭和51年に出版されました「黒磯市史」の357頁から361頁までに詳しく記されています。規約の第1条から第19条までと、規約附則第1条から第10条までは次号以下で紹介いたします。(以下次号へ)

できるものではなかったでしょう。那須疎水もコンクリートの3面張りになったのは、昭和48年東北新幹線建設工事が始まった頃からでした。那須疎水完成後、通水してからの維持管理の大変さが迫ってくる歎願書です。(以下次号へ)

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光男

朝、園庭に行きますと、グランド門前の水たまりで数人の子どもたちが、手持ちスコップで泥水をすくっては容器に入れる行為を繰り返しているのが見えました。

時々、位置を変えながらすくっていましたので、近くに行つて「何をしているの」と尋ねました。彼らからは「氷すくい」との返事がありましたが、私には水たまりの氷は見えませんでした。「どこ」と尋ねると「そこ、そこにも」と指さして教えてくれました。そこで、よくよく水たまりの水面を見てもみずと、水たまりの底まで透ける位の無色とっていいほどの氷のかけらが見えました。

私は今までの経験上、氷はある程度の厚さがあり、少し曇ったものという固定概念でしか見ていませんでしたので、見つけることが出来なかったのです。大人が見過ごしてしまうような園庭の細かい変化に気づき、その変化した環境を通して、協力しながら遊んでいる子どもたちを素晴らしく思いました。

そして、今そのことを思い起こしてみますと、別な発見がありました。一生懸命氷を集めていた子どもが、集める作業を中断し、「園長先生よく見て」ではなく、「そこ、そこにも」と1つ1つの氷を具体的に示すという親切な対応してくれました。

『星の王子様(サテガシペリ)』には、私たち大人が子どもに接する大切な姿勢と同じように、子どもが大人に接する姿勢が、記されています。「だからといって大人を責めてはいけません。大人を相手にするとき、子どもは寛大でなければならない。」

この一節のように、子どもたちは、私に実に寛大に接してくれました。改めて、子どもも大人も、互いに育ち合う存在であると子どもたちに教えて貰いました。

聖園那須老人ホームたより

聖園那須老人ホーム

施設長 赤坂 英昭

「措置入所・契約入所」

暖冬とはいえ2月は一年で最も寒い季節です。インフルエンザの流行に加え中国で発生した新型コロナウイルスの拡大の勢いが加速しており日本でも日を追うごとに新たな感染が確認されているようです。インフルエンザと同様に日ごろから励行しているうがい手洗い等感染症対策を行っていきたく思います。

また、暦の上では立春となっており、ホームでは

今年も恒例の行事となっている節分の行事が行われました。職員が扮した赤鬼青鬼は豆を投げつけられ奮闘していましたが入所者職員ともに楽しい一時を過ごすことができました。鬼たちには、心から「ご苦労様」と声をかけてあげたいと思います。



さて、以前にも書かせていただきましたが、聖園那須老人ホームは「養護老人ホーム」で昭和38年

社会福祉法に規定する第一種社会福祉事業です。65歳以上で身体・精神に障害がある方、また環境上の理由、経済的な理由から居宅での生活が困難という方が入居する行政の措置施設です。養護老人ホームは、介護保険施設と違って希望しても入所できるかどうかは、市区町村長の決定に委ねられています。全国老人福祉施設協議会の調査では国の養護老人ホームの平均入所率が89.9%だったことがわかり自治体が予算を抑えるため入所者を回さない「措置控え」が問題になっており当ホームも例外ではありません。

そんな中2018年に施行された、「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」は、地域包括ケアシステムを全世代、全対象に広げていくべく、地域共生社会の実現に向けた取り組みの推進を柱の一つとして掲げており、地域共生社会の実現にあたっては、とりわけ住まいの確保が重要であり、養護老人ホームがその機能を生かし、一定の機能を果たすことが期待されており、収容に余力がある場合に限り定員の20%の範囲で契約入所が認められることになり、ホームでも受け入れ態勢を進めています。

ホームでは現在もDV、虐待、矯正施設を出所した方等の緊急一時保護入所を積極的に受け入れています。今後もソーシャルワーク機能を強化し、地域社会や行政機関や地域包括支援センター、医療等との連携を図り信頼関係を構築するとともに、多様なニーズに包括的に対応できる高機能な施設を目指したいと思います。

YMCAだより

【とちぎYMCAウィンタープログラムが終了しま

した！】

12月下旬よりスタートしました、とちぎYMCAウィンタープログラム（キャンププログラム・日帰りプログラム・スキープログラム・ウェルネスプログラム）が予定通り実施され、無事に終了いたしました。沢山の子どもたちが参加し、有意義な時間を過ごし、貴重な時間を過ごし、貴重な体験を重ねることが出来ました。また、ユースリーダーも各プログラムに参加し、それぞれの役割の中で子どもたちと向き合い、共に過ごし成長することが出来たと思います。YMCAのプログラムにはCaring（やさしくする）、Honesty（しょうじきになる）、Respect（人を大切におもう）、Responsibility（できることは自分からする）というYMCAで大切にしている4つの想いが込められています。プログラムの様々な場面で、子どもたちがそれらを感じ考えてく



れたらとても嬉しく思います。また、その経験が子どもたちを成長させ、日々の生活で活かされることを願い、今後もプログラムを展開していきます。

那須YMCAからは6名のリーダーがシーズンプログラムに参加し、内1名は埼玉YMCAのキャンプに参加しました。

【YMCAピンクシャツデー2月26日（水）】

ピンク色の服を着ていじめ反対をアピールする「ピンクシャツデー」を今年も全国のYMCAで行います。この運動は2007年カナダで、ピンク色のシャツを着た少年がゲイだといじめられたことに抗議し、皆でピンクシャツを着たことから始まりました。社会全体がいじめに対して「自分事として」向き合



うこと、そして被害者と加害者以外の立場にいる人が「傍観者にならないこと」が、いじめられている人を救うことになると私たちは考えます。公平で平和な世界の実現を目指していきます。2月26日はみなさんでピンクシャツを着ましょう！

【とちぎYMCA・那須YMCAの2月の予定】

【とちぎYMCA・那須YMCAの2月の予定】

- ・2/1（土） サタデークラブ@那須高原自然の家（雪遊び）
- ・2/8（土） サタデークラブ@那須高原自然の家（雪遊び）

- ・2/9 (日) CAMP SONG DAY 2020 @さくらんぼ幼稚園
- ・2/15 (土) サタデークラブ@矢板いちごの里 (いちご狩り)
- ・2/15 (土) リーダーズアクト@芳賀青年の家
- ・2/15 (土) リーダーズアクト&ドッジボール大会@トライ東
- ・2/16 (日) Yキッズ@今市青少年スポーツセンター (スケート)
- ・2/15~16 (土・日) 野外クラブ雪遊びキャンプ
- ・2/22 (土) サタデークラブ@矢板いちごの里 (いちご狩り)
- ・2/26 (水) ピンクシャツデー



- ①堀江紗矢(でんでん)
- ②国際医療福祉大学保健医療学部看護学科
- ③栃木県那須烏山市
- ④ボランティアを行いたいと考えていたとき、友達のラミも所属していて楽しそうで、成長できる活動を行っている団体だと感じたから。

⑤Yキッズの野外炊飯
メンバーも私も自分たちでできるやり方を探したり、何でこうなるのかを一生懸命考えたりしながら、最高のカレーを作る経験ができたから。

⑥大学卒業後、看護師として小児科でまた子供たちと向き合っていきたい。

⑦これまではあまり参加できてなかったもので、これから更に様々な活動に参加し、子供たちと一緒に楽しんでいきたいです。よろしくお願いたします！

ユースリーダーのつぶやき

1. 名前(リーダー名) 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは? 5. 思い出に残った活動とその理由は? 6. 今後の進路は? 7. YMCAに一言

震災を語り継ぎ、被災地を思い、共に考える 揚がれ！希望の凧 2020 那須会場



2020年3月7日(土) 13:00~15:00

※地震発生時刻の14:46に黙とうをします

活動場所: 大田原市ふれあいの丘 芝生広場 (大田原市福原 1411-22)

参加費: 無料

持ち物: 凧

申込み: 当日会場にて受付をしてください。
事前の申込みはありません。

※雨天中止です(少雨の時は様子を見ながら行います)

問合せ: 028-624-2546 (平日 9:00~19:00)

東日本大震災から九年を迎えます。「震災復興」と「平和実現」を願って、全国各地で「希望の凧」が揚げられます。「凧揚げにはどんな意味があるの?... 私たちを包み込む大空は被災地にそして世界に繋がっています。大空高く「希望の凧」を飛ばして、私たちの願いを伝えましょう! 子どもから大人まで、どなたでも参加できます。昨年の那須会場では約50名、宇都宮会場では約80名、足利会場は約40名の参加がありました。2020年も全国各地で、栃木県内でも那須会場の他に、宇都宮会場にて「希望の凧」が開催されます。

【共催】 那須YMCA、那須ワイズメンズクラブ



那須YMCA

公益財団法人 ときぎ YMCA 〒320-0041 栃木県宇都宮市松原 2-7-42 Tel 028-624-2546 Fax 028-624-2489

